

## 会議の状況

## I 平成29年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議監視委員会

1. 日 時 平成29年12月7日(木) 13:00~15:00

2. 場 所 国際ホテル 3階 萬葉の間

3. 出席委員 33名

## 4. 提出資料

資料 1 会議の状況

冊 子 原子力施設環境放射線調査報告書(平成29年度第1四半期報)

冊 子 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成29年度第1四半期報)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

参考資料4 平成28年度原子力施設等防災対策等委託費(海洋環境における放射能調査及び総合評価)事業について

広 報 誌 モニタリングつうしんあおもり No. 106

## 5. 概 要

## (1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成29年度第1四半期)について

## (ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成29年度第1四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

## (イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・東通原子力発電所に係る平成29年度第1四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

## (ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から冊子により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成29年度第1四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果(平成29年度第1四半期)について

県から冊子により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

## (2) その他

### ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により各事業の運転状況等について説明があった他、ウラン濃縮工場 排気ダクトの点検状況及び点検結果、神戸製鋼所による検査データの不適切な対応、再処理工場における非常用電源建屋(非管理区域)への雨水の流入等について説明があった。

### イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況等について説明があった他、中央制御室換気空調系ダクトの点検調査結果について説明があった。

### ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により新規規制基準に係る適合性審査の状況について説明があった。

### エ 平成28年度原子力施設等防災対策等委託費(海洋における放射能調査及び総合評価)事業(青森県関係データの抜粋)

原子力規制庁が実施している標記事業の青森県関係の調査結果抜粋について、受託者である(公財)海洋生物環境研究所(以下、「海生研」という。)から、参考資料4により説明があった。

委員から、ウラン濃縮工場補助建屋における火災の発生の原因と対策について、「火災と判断され、同時に鎮火が確認された」ことの意味について質問があり、事業者から、火災を確認した時点で火が消えていたとの回答があった。

委員から、日本原燃(株)の機器の維持管理について、機器が壊れた場合は部品を交換するのではなく、機器一式を交換する方がよいのではないかとの提案があり、同社から、全ての機器を現在把握しているところであり、今後、交換時期を決めてしっかり管理していく、また、機器によっては一式交換するが、修繕をしながら使用していく、維持管理についての新たな知見が得られた場合はその都度見直していくとの回答があった。

委員から、日本原燃(株)の度重なるトラブルなどに対して、スピーディーにしっかり管理して欲しいという意見があり、事業者から、施設の全数把握を行い、しっかり管理し、全社を挙げて全力で改善するとの回答があった。

委員から、海生研では放射能調査の実施の際には海水の酸性化についても計測を行っているかとの質問があり、海生研から、海水の酸性化を対象とした計測を行っていない(受託する調査事業の内容でない)旨の回答があった。

委員から、県や事業者で行っている放射能調査と海生研が行っている海洋環境における放射能調査の位置付けについて質問があり、県及び海生研から、県で行っている調査は原子力施設周辺の調査であり、海生研で行っている調査は全国的な幅広い調査であるとの回答があった。

## II 平成29年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会

1. 日 時 平成30年2月6日(火) 13:30~15:30

2. 場 所 ホテルクラウンパレス青森 2階 奥入瀬

3. 出席委員 16名

### 4. 提出資料

資 料 1 会議の状況

資 料 2 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(平成29年度第2四半期報)

資 料 3 原子力施設環境放射線調査報告書データ集(案)(平成29年度第2四半期報)

資 料 4 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)(平成29年度第2四半期報)

資 料 5 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング計画の見直しについて(案)

資 料 6 平常の変動幅の設定について(案)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

### 5. 概 要

#### (1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成29年度第2四半期報)について

##### (ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成29年度第2四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

##### (イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・東通原子力発電所に係る平成29年度第2四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

##### (ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成29年度第2四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

委員から、河底土(二又川下流)のウラン濃度について、採取方法、ウランとフッ素の測定値の関係及び上流側での調査に関する質問があった。事業者から、測定開始当初から同じ場所で採取している。また、ウランとフッ素の測定値に相関は得られていない。上流側で、ウラン系列の子孫核種等についても検討する、との回答があった。

委員から、表土のプルトニウム測定結果のばらつきについて質問があり、県から、土質や粒径が違うことが考えられる、との回答があった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果（平成 29 年度第 2 四半期報）について  
県から資料 4 により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

ウ 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング計画の見直しについて  
県から資料 5 により説明があり、了承された。

なお、委員から、将来的な有機結合型トリチウムの測定の必要性について意見があり、県から、調査研究事業の結果を踏まえて検討していきたい、との回答があった。

委員から、成人一日の食品摂取量の見直しについて意見があり、県から、今後の検討課題である、との回答があった。

エ 平常の変動幅の設定について  
県から資料 6 により説明があり、了承された。

## (2) その他

### ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料 1 により各事業の運転状況等について説明があったほか、再処理工場における非常用無停電電源装置の故障等について説明があった。

### イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料 2 により東通原子力発電所の運転状況等について説明があったほか、原子炉建屋における水の漏えい等について説明があった。

### ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料 3 により新規制基準に係る適合性審査の状況について説明があった。

委員から、参考資料 1 の低レベル放射性廃棄物の放射能測定の誤りについて質問があり、事業者から、搬出元の測定値を検証するような再測定は行っていないので、搬出元に責任ある対応を要請していく、との回答があった。

委員から、参考資料 1 に示された低レベル放射性廃棄物搬出検査装置（搬出元）の放射能測定プログラムの不具合に対する再発防止対策は極めて難解なので、わかりやすい記載にしてほしいとの意見があり、事業者から、そのように対応する、との回答があった。